

# 育脳寺子屋NEWS

2021. 6. 1 (小学生)

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

## 我が子を「勉強好き」にさせる秘訣とは・・・？

～実は「トライアルの感想文」がとっても重要なんですよ～

新しい仲間が増えたこの時期、良い機会ですので育脳寺子屋で使用している教材のこと、なぜ毎回感想文を書いて頂いているかなど、ここでまとめてみようと思います。

以前にも同じような内容を書きましたが、この春に入塾された方は育脳寺子屋について理解を深めて頂き、入塾して何年も経つ方は再確認の機会にして頂ければと思い、再度書かせて頂きます。

一つ言えることは、お子さんを「もう～、早く宿題しなさい!!!」と言う必要のない、勉強好きな子に育てるには塾だけではなくご家庭の協力が必須だということです。実は毎月お願いしている「育脳トライアルの感想文を書く時のお父さんお母さんの対応」がお子さんを勉強好きにさせるか否かを大きく左右させるのです・・・。

(こう言われるとプレッシャーですよ 笑)

## 「育脳トライアル」という教材はどんなもの？

ほぼ月に1冊のペースで取り組んでもらっている育脳トライアルですが、子どもたちに一番人気の教材です。人気の秘密は何なのか・・・？それは、『答えが一つではない問題が多い』からです。

いきなりですが問題です。あなたならこの問いに対してどんな答えを出しますか？

● 事物・事象に対する知識  
● 属性関係の把握  
● 自由な発想と多面的着眼

育脳トライアルプリント  
仲間はずれ

3分 5秒  
5問

仲間はずれはどれでしょう？

① ア イ ウ エ

Illustrations: a knife, a fork, a butter knife, and chopsticks.

解答例で言うと、

ア・・・食べる時に使わない。      イ・・・これだけ先が分かっている  
エ・・・これだけ二本                      エ・・・これだけ刺したり切ったりではなくつまむもの  
エ・・・これだけ木で、他は鉄の部分がある                      etc..その他も多数ありますよ！！

つまり、考え方（定義の仕方）によって様々な解答になる問題なのです。学校のテストでは答えはひとつなので○か×で採点され、「なぜその答えにしたの??」ということ聞かれることはほぼありません。こちらでは低学年の間からこのような問題に取り組むことによって、楽しみながら**思考力**を鍛えているのです。自分なりの考えで答えを出して○をもらえるので、子どもたちは楽しいと感じるのです。

これからの時代は「**知識**」だけではなく「**知恵**」のある子でなければ生きていけません。低学年の間に様々な側面から物事を見る訓練に取り組んでおけば、固定概念ではなく柔軟な視点を持った子に育つのです。丸つけをしていると本当に感心させられる解答が多く、日々楽しませてもらっています(^^)

## なぜ親が「感想文」を書かないといけないの!?

月に一度、育脳トライアルが終わる度に生徒本人、親御さん共に感想文を書いて頂いています。その提出がないと次の一冊をもらえません。

正直「なぜ親が感想文を書かないといけないの??」と思われる親御さんが多いのではと思います。特にお子さんが複数人通っている親御さんからすると大変な労力だということはよく理解しています。

なぜ親にまで感想文を書いてもらう必要があるのか、その理由は大きく2点あります。

### ①「お子さんの学習意欲向上の為」

育脳トライアルは月間教材となっているので、ほぼひと月に1冊のペースで進みます。お子さん本人からすれば、ひと月かけて一冊のテキストをやり終えることは非常に大きな達成感・満足感を得ることができます。さらに親がそのテキストを見てくれて、感想まで書いてくれれば「よし、次も頑張ろう!もっとたくさん○をもらえるようにしよう」と、学習意欲が増すのです。**親が感想文を書いてくれる=ちゃんと自分のことを見てもらっているという安心感から、良い学習習慣を身に付けられるようになります。**

## ②「わが子の成長を把握して頂くため」

「うわ～、うちの子この問題に対してこんな答え書くと、子どもの内面を垣間見た気がしました。」という感想文を頂いたことがありました。

子どもたちは日々成長しています。毎月毎月、子どもたちの解き終えた育脳トライアルを見ると、日々の成長がはっきり見えてきます。**書く文字、思考力、発想力**などなど。このちょっとずつの成長をしっかりと感じ、見守ってあげて欲しいのです。

大人はどうしても目に見えて分かる結果（テストや成績など数字で表せるもの）を求めがちです。しかし、子どもたちの「ぐっと伸びる時期」は本当に様々です。小学校中学年くらいで一気にお兄さんお姉さんになったなという子もいれば、高学年で急に勉強ができるようになったな・・・という子も、中学に入ってある時期から一気に成績が上がった・・・など 10 人いたら 10 通りなのです。

すぐに結果が出ていないからといって、今取り組んでいることを否定しないようにして下さい。親がそうすると子どもは根気強くひとつのことに取り組めなくなります。

## 『すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなる』

これは伝説の教師と言われた灘高の橋本武先生の言葉です。今はインターネットによって、たいていの知識は検索ですぐに得られる時代になっています。こういう時代に大事なことは、効率的にたくさんの知識を詰め込むことではなく、少しでも興味、関心があったら横道にそれて、自分で調べ、自分で考え、理解し、その知識を自分の行動に役立てていくことだと思います。

そうして得た知識、知恵、経験といったばらばらの点だったものが次第に繋がって、線になり、面になり、確実な自分の力になっていきます。つまり、将来的に本当に役に立つ力はすぐには身に付かないし、なかなか目にも見えにくいものなのです。

今の子どもたちはまさにその作業の真っ最中です。すぐに結果を求めるのではなく、長い目で見守ってあげて下さいね。

## 感想文を書く際のお願い

さて、冒頭の「育脳トライアルの感想文を書く時のお父さんお母さんの対応」の件ですが・・・  
我が子に感想文を頼まれた時、どのようなリアクションをされていますか？

「よし、じゃあ一緒に見返そうか？ どうしてそんな答えになったか教えて！」

というようなやり取りでしょうか？ はたまた、

「え、また～？ 面倒臭いなあ。後で書いておくからそこに置いておいて」でしょうか・・・。

提出頂いている感想文は必ず全てに目を通して頂いています。（正直感想文を読ませて頂いていると、感想文を書く際にどのようなやり取りをされているか、だいたい見えてきます・・・笑）

感想文を親に頼む時の、お子さんの気持ちになってみてください。

もし後者のような対応の場合、自分がひと月頑張ってきたことに興味を持ってもらっていないと感じ、「次の一冊もじっくり見てもらえないだろうから、適当にしておこう・・・。」とならないでしょうか？ 前者の場合と後者の場合、どちらの方が子どもを勉強好きにさせる対応であるかは明らかですよね。

1週間を分に直すと10,080分になります。その内来てもらっている時間は小学生ならせいぜい90～180分程度です。残念ながら育脳寺子屋にいる時間だけで、子どもを勉強好きに変えてあげられる魔法はありません。

子どもはお母さんが大好きです。子どもを勉強好きにさせるかどうかは多くの時間を一緒に過ごすご家庭（お母さん）の対応にかかっているのです。ご家庭で勉強を教える必要はございませんが、感想文を書く際のやり取りは大切にしていきたいと思えます。

一緒に育脳トライアルを見返す際は、答えの間違いを指摘するのではなく、お子さんの説明に感動し、驚いてあげてください。そして、その際に大切なことは、お子さんの目を見て説明を受けて頂くことです。

親御さんは本当にお忙しい日々だと思います。しかしお子さんを勉強好きにするための、月に5～10分程度の時間です。ぜひこの感想文を書く時間が「苦痛」ではなく、こどもと共通の話題で話ができる「**至福の時間**」にしていきたいのです。

感想文を書く時間がお母さんにとって「**至福の時間**」になった時が、子どもが勉強好きになる時です。この一年も私たちとご家庭の二人三脚でお子さんを育てていきたいと思えます。ご理解とご協力のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

# てんびょうしゃ いみ 点描写にはどんな意味があるの？

みんなが育脳トライアルで取り組んでいる「点描写」にはどんな意味がある  
おも じつ げーむ  
と思えますか？実はただのゲームではないのですよ～。

## てんびょうしゃ い ちから はぐく 点描写は「生きる力」を育てているのです！

いくのうとらいある べーじ と く てんびょうしゃ ぐうかんになちのう  
育脳トライアルで2ページごとに取り組んでいる点描写は「空間認知能」  
のうりよく きた  
という能力を鍛えています。

ぐうかんになちのう さんすう すうがく ずけい もんだい つよ い  
空間認知能は算数や数学の図形の問題に強くなることは言うまでもあり  
ませんが、日頃の生活でも「時間的な感覚」や「段取りを立てて、その通  
ひごろ せいかつ じかんてき かんかく だんど た とお  
りに物事を進めていく力」というのは、この空間認知能が大きく関係して  
ものごと すす ちから ぐうかんになちのう おお かんけい  
いるのです。

のう せんもんか はやしせんせい ぐうかんになちのう きた ようりょう わる ひと  
脳の専門家である林先生は「空間認知能を鍛えないと『要領が悪い人』  
しごと ひと おっしや  
『仕事ができない人』になりかねない」と仰っています。

みな てんびょうしゃ と く しょうらいおとな とき こま  
つまり皆さんは点描写に取り組むことで、将来大人になった時に困らな  
いように「生きる力を」育てているのです。  
い ちから はぐく

い はや ていねい だいいち きも いま  
いつも言っているように「速さよりも丁寧さを第一に」の気持ちで、今  
いじょう しんけん と く くだ  
まで以上に真剣に取り組むようにして下さいね。



いじん めいげん  
偉人の名言

ぐうかんになちのう きた ようりょう わる ひと  
「空間認知能を鍛えないと「要領が悪い人」  
しごと ひと  
「仕事ができない人」になりかねない」

はやしなりゆき にほんだいがくめいよきょうじゅ のうしんけいげかい  
林成之 ～日本大学名誉教授の脳神経外科医～

じぶん へや めだ は よ かせ  
自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。